

No. 1288

全 方 位 外 交 へ

— 福田首相中東歴訪 —

「今日、国際社会の相互依存関係が急速に深まり、我が国の外交も、また単に世界の動きに受身で対応し、これを処理するというだけでは済まされない新しい時代に入りました。過日、私が史上はじめて、中東四ヶ国を公式訪問いたしましたのも、正にこのような我が国の外交努力の一環であります」(第85回、福田首相所信表明演説)

9月5日、福田首相はイラン、カタール、アラブ首長国連邦、およびサウジアラビアの中東四ヶ国歴訪のため羽田をたった砂漠の上空を飛びながら地図をひろげる首相夫妻。

日本の現職首相が中東諸国を訪問するのは、これがはじめてで、欧米諸国にくらべて立ち遅れていた日本の中東外交もようやく本格的になってきた。イラン空港で一行を出迎えたシャリフエマミ首相と握手。7日、首相はパーレビ国王と会談。席上イランがペルシャ湾の入り口に位置していることからインド洋、ペルシャ湾地域の安全保障をめぐるイラン側の見解が述べられ日本も同地域は石油産出及び供給路の面で重要であり、重大な関心を持っていたと説明、更に経済問題ではイランが日本との合弁で進めているバングルシャプールの石油化学工場建設計画を促進することで合意した。

9日、カタールの首都ドーハを訪問。カリフ首長殿下主催の晩さん会に出席した。翌10日、アラブ首長国連邦の首都アブダビ、ザイド大統領と会談、この中で首相は「基軸通貨・ドル安定が何よりも大切だ」と述べ、ドル減価が産油国に与える影響をただした。これに対し、同席したオタイバ石油相は「各国への投資に影響が出ているし、石油収入も12~14%マイナスとなった。しかし、12月のオペックまで石油価格に大きな変化はない」と答えた。11日、最後の訪問国サウジアラビアに到着。ヤマニ石油相が記者会見し、「サウジアラビアは技術工業化の見返りなしに石油輸出はしない。日本はわが国の要求を満たすことのできる数少ない国の一つだ」と述べ日本がサウジアラビアに技術移転することにより、石油供給を受けられるとの考えを明らかにした。首相はハリド国王と約40分にわたって会見、ハリド国王は石油の価格について「我が国に輸入される商品価格と石油の価格とは関係があるので考慮してほしい」と述べこれに対し首相は「日本の物価は安定しているが世界中の物価が安定することが望ましい、日本はインフレの輸出はしない」と述べた。

全方位外交を唱える福田首相。一行は各国で手厚い歓迎を受け友好関係を強めたが、問題は数多くの公約をどう実行していくかであろう。